

教育研究業績書

令和3年5月1日			
氏名 野口 一夫 印			
認定を受けようとする課程における担当授業科目			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育に関する科目
・保育内容環境(単独) ・環境の指導法(単独)		・保育・教職論(単独)	
教育上の能力に関する事項			
事項	年 月	概要	
1 教育方法の実践例	平成21年4月～	パワーポイント、実技・演示の提示の仕方、実習体験を重視した授業形態の工夫	
2 作成した教科書・教材	平成22年2月 平成26年2月	全頁並びに「めいじんブック」に執筆 全頁並びに「たんけんブック」に執筆 ～本短大「生活」の授業で使用～ 啓林館「生活科」教科書執筆	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		教育行政時代(埼玉県大宮市)は生活科、理科、総合的な学習等で現場の指導にあたり、また全県の幼児教育の関連研修事業を統括。「幼保小の連携」や「エネルギー環境教育」に関する講演活動等で地域に貢献している。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項		埼玉県内の松山女子、筑波大学附属坂戸、聖望学園、寄居城北、鳩山、富士見等の高等学校に出前授業「環境とエコについて」	
職務上の実績に関する事項			
事項	年 月	概要	
1 資格, 免許	昭和46年3月 昭和46年3月 昭和46年3月	小学校教諭一種免許状(昭45第194号秋田県教育委員会) 中学校教諭一種免許状(理科)(昭45第363号秋田県教育委員会) 高等学校教諭二種免許状(理科)(昭45第302号秋田県教育委員会)	
2 学校現場等での実務経験	30年	秋田県立盲学校教諭(昭和46年4月～昭和47年3月まで) 八郎潟町立八郎潟中学校教諭(昭和47年4月～昭和48年3月まで) 若美町立払戸町立払戸小学校教諭(昭和48年4月～昭和49年3月まで) 大宮市立指扇小学校教諭(昭和49年4月～昭和57年3月まで) 大宮市立三橋小学校教諭(昭和57年4月～平成3年3月まで) 文部省教職員等中央研修講座受講(昭和62年5月) 文部省教員海外長期派遣(平成2年10月)	

様式第4号（教員個人に関する書類）

		大宮市教育委員会指導課指導主事（平成3年4月～平成5年3月まで） 埼玉県立南教育センター指導主事・主任指導主事（平成5年4月～平成9年3月まで） 埼玉県大宮市立芝川小学校校長（平成9年4月～平成12年3月まで） 埼玉県立総合教育センター教育主幹（平成12年4月～平成14年3月まで） さいたま市立宮前中学校校長（平成14年4月～平成17年3月まで） さいたま市立春野小学校校長（平成17年4月～平成21年3月まで）			
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成3年4月 平成18年11月 平成21年9月 平成21年11月 平成22年3月 平成22年11月 平成24年11月 平成25年6月 平成25年7月 平成25年8月 平成26年8月 平成27年8月	「幼保小の連携」に関する講演活動を実施 大宮市内3つの小学校（市教委委嘱研究）と公私立幼稚園に対して行い、研究発表を指導・助言した。 「さいたま市環境フォーラム（エコアジア）」- アジアにおける環境問題について - シンポジウムパネリストを務めた。 「みんなの生き物調査」委員 さいたま市環境総務課 市民提案型協働モデル事業 プラットフォームづくり 「生活・総合全国大会（埼玉大会）」～生活と総合で潤いと元気を！～ 環境との出会いを通して、自ら探究する子どもの育成 - コーディネーターを務めた。 東京電機大学主催環境フォーラム「山村学園短期大学における環境・エネルギーの取り組み」の提案者を務めた。 さいたま市立上里小学校研究発表会講演「生き物・環境・地球」講演講師を務めた。 埼玉県・さいたま市教育委員会主催講演「幼保小の相互理解と家庭との連携」講演講師を務めた。 学校法人のはら幼稚園主催講演「子育てについて、親の心構え」講演講師を務めた。 毛呂山町・坂戸市・鶴ヶ島市合同教育研修会主催講演「幼稚園教諭として望まれるマナー」講演講師を務めた。 鶴ヶ島市教育委員会主催講演「幼保小の連携」講演講師を務めた。 毛呂山町教育委員会主催講演「幼保小の連携～保育者の目、親の目～」講演講師を務めた。 さいたま市子ども未来局幼児政策課主催「保育者自然体験研修」の講演講師を務めた。			
4 その他		特記事項なし			
担当授業科目に関する研究業績等					
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要

様式第4号(教員個人に関する書類)

保育内容環境	(教育実践記録等) 1 教育・保育と環境 ～ 本学の自然環境 を生かして～	単	平成 31 年 3 月	山村学園短期大学研究紀要第 29 号	乳幼児の教育・保育のあり方の原点としてレイチェル・カーソン「センスオブワンダー」を基に保育内容「環境」を考察(pp:1～26)
	2. 保幼小の連携の課題と展望 ～ 実践例を踏まえて～	単	平成 28 年 3 月	山村学園短期大学研究紀要第 26 号	保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」の位置付けと保育現場において身近な環境の中で自然に触れることの重要性を記載。(pp:85～108)
	(その他) 1 . 環境教育実践事例集	共	平成 21 年 3 月	小学館 (128 頁)	「春野サミットを開こう」～CO2削減のため、できることから実行しよう～ 週一回ゴミ拾い活動 手を洗ったり、歯を磨いたりするときは節水 動植物の命を大切に 他 幼保小の連携のもと、環境領域において執筆 <u>身近な動植物・野菜園遊び(草笛・おもちゃ・カルタ等)</u> (pp:32～35) 著者：江頭基子、野口一夫、他
	2. 生活科教科書	共	平成 22 年 2 月	啓林館 (上 115 頁) (下 99 頁)	幼稚園・保育所等と小学校の連携で「生活科」は、その橋渡しの教科として位置づけとなっている。様々な環境との出会いとして、 <u>季節・動植物を中心に、人的・物的の身近な環境の構成について記述。</u> 全頁共著のため抽出不可。 著者：天野正輝、寺尾慎一、野口一夫、他
3. 生活科教科書	共	平成 26 年 2 月	啓林館 (上 133 頁) (下 125 頁)	<u>様々な環境との出会いとして、季節・動植物を中心に、人的・物的の身近な環境の構成について記述。</u> 全頁共著のため抽出不可。 著者：天野正輝、寺尾慎一、野口一夫、他	
4. 環境・エコへの道標	単	平成 28 年 1 月	雄文社 (221 頁)	幼稚園・保育園・学校・家庭へ <u>環境・エコへの基礎と取り組み</u> 子どもとエコロジー等、子どもを取り巻く環境について執筆	
環境の指導法	(教育実践記録等) 1 教育・保育と環境 ～ 本学の自然環境 を生かして～	単	平成 31 年 3 月	山村学園短期大学研究紀要第 29 号	(再掲のため、略)

様式第4号(教員個人に関する書類)

	<p>2.保幼小の連携の課題と展望～実践例を踏まえて～</p> <p>(その他)</p> <p>1.環境教育実践事例集</p> <p>2.生活科教科書</p> <p>3.生活科教科書</p> <p>4.環境・エコへの道標</p>		<p>平成28年3月</p> <p>平成21年3月</p> <p>平成22年2月</p> <p>平成26年2月</p> <p>平成28年1月</p>	<p>山村学園短期大学研究紀要第26号</p> <p>小学館 (128頁)</p> <p>啓林館 (上115頁) (下99頁)</p> <p>啓林館 (上133頁) (下125頁)</p> <p>雄文社 (221頁)</p>	<p>(再掲のため、略)</p> <p>(再掲のため、略)</p> <p>(再掲のため、略)</p> <p>(再掲のため、略)</p>
<p>保育・教職論</p>	<p>(著書)</p> <p>1.判断と決断の挟間</p> <p>2.生活科教科書</p> <p>3.生活科教科書</p>	<p>単</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p>平成21年1月</p> <p>平成22年2月</p> <p>平成26年2月</p>	<p>雄文社 (181頁)</p> <p>啓林館 (上115頁) (下99頁)</p> <p>啓林館 (上133頁) (下125頁)</p>	<p>学校管理者としての経営学 学校管理者(幼稚園長を含む)保育所長として幼児児童はもとより、<u>所属職員の管理・指導のノウハウを執筆。法規・規則、不測の事態への対処の仕方、今後の課題を明記。</u> <u>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における自然の位置づけについて執筆</u></p> <p>(再掲のため、略)</p> <p>(再掲のため、略)</p>